

# 総合表現(創作オペレッタ)における表現科目の連携： 「音楽」「造形表現」「身体表現」の観点から

Cooperation Among Expression Subjects in Comprehensive Representation  
(Creative Operetta):

From the Viewpoint of Expression Using Music, Modeling and Movement

キーワード：音楽表現、保育者養成、科目間連携、保育内容

三好 優美子 渡邊 洋 長谷川 千里 柳田 憲一

MIYOSHI Yumiko WATANABE Hiroshi HASEGAWA Chisato YANAGIDA Ken-ichi

## 1. はじめに

数多くの保育者・教員養成校において、オペレッタやミュージカル等が総合表現として取り入れられている。内容は既成のオペレッタ作品を上演するものや、童話を土台にして学生が創作するもの、オリジナル作品などさまざまであるが、共通するのは上演への過程において学生たちが表現技術や協調性を高め、保育所保育指針や幼稚園教育要領で示されている5領域を含めた学びの集大成として舞台を創り上げることであろう。そして、そこから得た学びを保育・教育現場で活かすことも期待されている。

学生の達成感や表現力の獲得なども含め、オペレッタが一定の教育効果をもたらしていることは、これまでの研究で数多く報告されている。例えば、北村(1984)は、主体的表現活動から得た自信・満足感と、現場に出た際の意欲の関連を述べ、佐々木・葛谷(2016)は、学生達が「コミュニケーション能力」と「人間関係構築能力」の大切さを学び、協力によって得た要素が「社会人基礎力」に当てはまると述べている。さらに、「表現」の授業における音楽・造形表現・身体表現の担当教員による連携や授業改善については、伊藤ら(2014)や、滝沢ら(2016)が発表しているように、それぞれの養成校において工夫がなされてい

る部分でもある。

〔体育短期大学(以下、「本学」)における歴史としては、1975(昭和50)年2月7日に本学第四体育館で開催された「音楽リズム発表会」でのグループごとに創作した10分程度の小品集の発表が「創作オペレッタ発表会」の発端であった。1976(昭和51)年2月に「創作こそ学習の原点である」との信念のもとに、学外コンサートホールにおいて「第一回音楽研究発表会」が一般公開された。1984(昭和59)年の第9回までは、第一部が「創作オペレッタ」、第二部が子どもの歌をメドレー形式にした「歌のファンタジー」の二部構成で行われていたが、次第に「創作オペレッタ」に焦点を絞るようになる。

1990(平成2)年の第15回より、カリキュラム改訂が重なったことから、すべての演題を学生による創作音楽劇として「創作オペレッタ発表会」と改称し、学生の総合的な音楽表現活動の集大成として、卒業制作に位置づけられるようになった。その中で、体育・スポーツ系の開設科目が充実している本学の特性を最大限に生かしたオペレッタづくりを目指すこととなり、現在もその流れが続いている(資料1)。

2015(平成27)年までの「創作オペレッタ」活動は、教職科目である「保育内容指導法(音楽表現)」の中で実践され、総合的な音楽表現活動の集大成とし

て年度末に外部ホールで発表している。2016(平成28)年のカリキュラム改訂に伴い、「創作オペレッタ」(幼稚園免許取得希望者:必修、小学校免許取得希望者:選択)が新設され、4月当初よりオペレッタ制作に特化したシラバスを組むことが可能となった。

これまでの「保育内容指導法(音楽表現)」、新設された「創作オペレッタ」のいずれにおいても音楽研究室に所属する教員が担当しており、ストーリー、台本、音楽(作詞、作曲)、演出、振付、小道具制作、衣装制作等、オペレッタ制作に関わる「音楽」「造形表現」「身体表現」のすべてを掌握している。

創作オペレッタは音楽が主体となるため、音楽研究室の教員が担当することには必然性があるといえるが、「音楽」以外の「造形表現」「身体表現」に関わることも音楽研究室の教員が行うこととなっている。しかし、演出、振付、小道具制作、衣装制作等については専門的知見から適切なアドバイスに頼ることが必要とされることから、「造形表現」「身体表現」に関わる内容については、授業時間外に専門分野である美術研究室、ダンス研究室の教員に協力を求めながら活動をしているのが実態である。学生たちの2年間の学びの集大成として舞台を創り上げるためには、授業外での協力だけでなく、さまざまな領域を超えて、授業間の協同・連携やオムニバスの授業展開を含めたカリキュラムの構築を再考すべきと考える。

本研究では、本学における創作オペレッタについての学生のアンケートをもとに、従来指導にあたってきた音楽担当者に加え、新カリキュラムから新たに創作オペレッタ指導に携わる造形表現・身体表現担当者が、その立場から、担当する各教科と創作オペレッタとの関連について考察を加え、教員及び保育者養成課程におけるオペレッタとして、また体育短期大学として本学ならではの「創作オペレッタ」とはどのような姿であるべきか検討し、学生により適切な内容を提供するための手がかりを得ることを目的とする。

## 2. 研究方法

### 2-1. 方法

創作オペレッタ発表会を見学した学生に、観客

の立場から創作オペレッタがどのように捉えられているかを調査目的としたアンケートを実施した。本学研究倫理審査委員会の審査を経て、名前を消去し個人が特定されないように配慮した上で1および2の記述内容に対し、KHCoder(樋口、2014)の頻出語抽出・共起ネットワーク図を用いて分析を行った。

### 2-2. 対象者及び実施日・実施場所

対象者: T体育短期大学児童教育学科1年生見学者129名

(平成28年66名、平成29年63名)

実施日: 平成28年2月9日及び平成29年2月14日

実施場所: たましんRISURUホール(立川市市民会館)大ホール

### 2-3. アンケート内容

創作オペレッタ上演内容について、その感想の自由記述<sup>1)</sup>(資料2)。

### 2-4. 手続き

提出された自由記述文をテキスト化し、「文」を単位に設定してKH Coderで頻出150語を抽出、共起ネットワーク図を作成した。頻出語や共起ネットワークの結果及び学生の記述から、「音楽」「造形表現」「身体表現」の領域ごとに記述内容を分類し、分析した。

## 3. 結果と考察

### 3-1. KH Coderによる分析

KH Coderによる分析結果は以下のとおりである。平成28年及び29年の結果に大きな差異が見られなかったため、両年をまとめて分析を行った。

共起ネットワーク図から見ると、学生の記述の傾向は、大きく以下の4つにまとめられる。

- ①「音楽・身体表現」関係(「声-歌-ダンス」)
- ②「造形表現」関係(「衣装-小道具」)
- ③「演技・台本」関係(「ストーリー-見る-分かる」)
- ④ 学生の次年度に向けての決意(「自分-オペレッタ-来年-舞台-頑張る」)

表1 頻出150語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
声	166	話	50	最後	26	捨て	14	王子	10	参考	8
見る	145	役	47	少し	26	照明	14	楽しむ	10	心	8
ストーリー	111	オペレッタ	46	入る	26	笑い	14	見入る	10	全て	8
歌	110	上手	45	妖精	24	物	14	後ろ	10	大変	8
面白い	90	作る	44	全員	23	残る	13	時間	10	比べる	8
大きい	89	出る	43	練習	22	素晴らしい	13	出す	10	変わる	8
良い	87	演技	42	綺麗	22	団結	13	人形	10	飽きる	8
衣装	86	小道具	42	感じ	21	合う	12	赤レンジャー	10	本当に	8
子ども	81	来年	40	凝る	21	仲間	12	仲間	10	友達	8
ダンス	78	可愛い	39	工夫	21	上手い	12	特に	10	キャラクター	7
分かる	78	多い	39	考える	20	食べる	12	たからもの	9	セット	7
自分	75	印象	38	高い	19	展開	12	テーマ	9	ハキハキ	7
内容	74	歌う	38	ゲーム	18	堂々	12	一つ一つ	9	レベル	7
人	73	凄い	37	細かい	18	それぞれ	11	協力	9	気	7
大切	67	小さい	36	伝える	18	一番	11	手作り	9	興味	7
場面	61	気持ち	34	動き	18	泣く	11	振り付け	9	言葉	7
野菜	61	聞こえる	34	演じる	17	最初	11	途中	9	好き	7
作品	60	ピアノ	33	個性	17	新しい	11	雰囲気	9	出来る	7
一人一人	59	たくさん	30	レンジャー	16	設定	11	流れ	9	全部	7
伝わる	59	表現	30	劇	16	大事	11	ソロ	8	知る	7
感動	58	舞台	30	頑張る	15	発表	11	ダイキ	8	登場	7
セリフ	57	音楽	29	使う	15	幼稚園	11	一つ	8	背景	7
楽しい	56	全体	29	笑う	15	ハート	10	歌詞	8	勉強	7
感じる	55	構成	28	世界	15	悪役	10	言う	8	目立つ	7
聞く	52	部分	28	素敵	15	演出	10	合わせる	8	要素	7

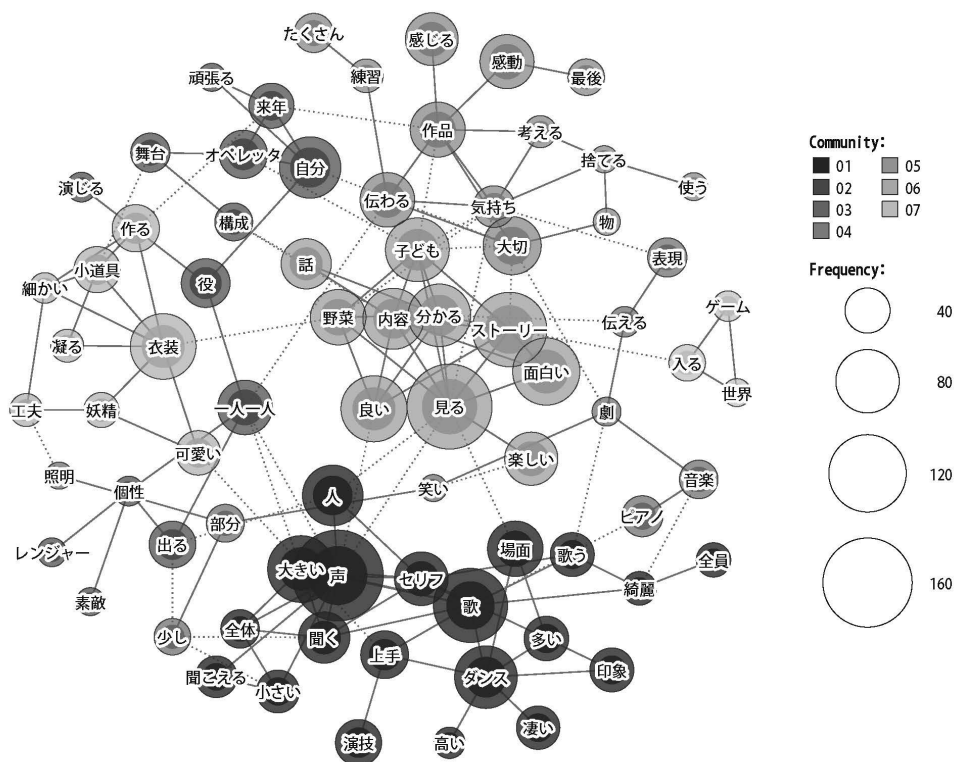


図1 共起ネットワーク図

これらの結果を元に、新たなカリキュラムで創作オペレッタを担当する、音楽・造形表現・身体表現の各教員が、それぞれの領域について内容を分析した<sup>2)</sup>。

### 3-2. 抽出語・共起ネットワーク・記述内容から見えるもの

#### 3-2-1. 音楽

##### (1) 抽出語

「声」の出現回数が166回であり、学生の記述で最も用いられていた言葉であった。内容はほとんどが客席に届く声量の記述である。市民会館クラスの大ホールで発表した経験を持つ学生は少なく、身近な先輩たちの上演を見て、ホールで響く歌や台詞に心を動かされたようである。声や演技が大きい登場人物について賞賛すると同時に、声が届かない登場人物に対しての意見も述べられていた(「大きい」「小さい」「聞く」「聞こえる」)。「声」の重要性に気付いたことから、次年度行う自分たちの舞台への決意につながる記述が多数あった(「自分」「オペレッタ」「来年」)。

音楽に関わる用語の出現回数については、「歌」110回、「歌う」38回、「ピアノ」33回、「音楽」29回、「ソロ」「歌詞」各8回であった。

オペレッタは歌を中心に展開していくため、歌に関する記述が多い。前述の声量以外では、ソロ(独唱)などの歌の上手さ(「上手」)、ハモリ・歌(曲)の素晴らしさ、歌詞のわかりやすさ等が述べられていた。中には、同じ旋律だが歌詞が異なる工夫に着目した記述もあった。

「ピアノ」では、演技に合わせて伴奏や効果音を演奏し、演技からスムーズに歌に入るなどの「動きに沿った演奏」について、息が合っているという賞賛や驚きの記述が多く見られた(「上手」)。また、少数ではあるが声の小さい出演者が「ピアノに負けていた」という使われ方もあった。

##### (2) 共起ネットワークによる分析

共起ネットワーク図では、「声」を中心として「大きい」「歌」「聞く」「人」「セリフ」「上手」という語が強

関係している。「声→一人一人→伝わる」や、「声→見る→内容・ストーリー・分かる」といったつながりから、観客に舞台の内容を伝え、理解を促す手段としての声の重要性がわかる。

「歌」を中心としたグループでは、「声」「セリフ」「歌う」「多い」「上手」「ダンス」と関係しており、「歌→歌う→ピアノ→音楽」といったつながりが「綺麗」と関係している。「歌う・音楽」からは、「劇→伝える→わかる」「劇→大切→気持ち」など、歌を中心として展開されていく内容への記述も見える。

興味深い点は、「ダンス」との関係性である。学生の中で、「ダンスや歌が…」という記述が見られ、舞台上の表現手段として「ダンスと歌」をまとめて捉える表記が複数見られた。

「声」からは「衣装・小道具」「歌」「演技」「ストーリー」と、どの要素にも共起ネットワークのラインがつながっており、直接的な関係があることがわかる。一方、「歌」からは「ダンス」や上演内容へのつながりが見られるものの、小道具・衣装とのラインのつながりがなく、直接的な関係は見られなかった。

##### (3) 記述内容

記述内容を見ると、ここでも「声」が重要視されている。「声大きい=聞きやすい」という内容だけではなく、「声の大きさや表情によって気持ちがわかりやすく工夫されていた」「ピアノも歌声も素敵」「ハキハキとした歌声やセリフが素直に心に届き、感動した」「声の張り方、表現の仕方が参考になった」「歌や演技力の上手さよりも舞台の広さに相応しい音量が大切だと思った」「みんなの歌声を聞いて、たくさんの思いがつまった作品だと感じた」等、見学した学生が「声」をめぐってさまざまな感じ方をしていることがわかる。

「歌」については、「みんな歌が上手で感動した」「一人一人の歌声が全員で歌ったときに綺麗に響いていた」「歌のハモリがすごく綺麗だった」「ピアノと歌も息がぴったりですごくいいと思った」等、演奏に対する賞賛が多数であるが、「非常にわかりやすい歌詞」「みんなで歌っている歌がとても良くて、感動した」等、「歌」の作品自体に対する評価も見られた。また、「歌も踊りも全てがすごかった」「セリフや歌に心がこもっ

ていて、表現力豊かだなどと思った」等、他の表現要素を含めた記述も多く見られた。

「音」「音楽」については、「ピアノの音が綺麗だった」「悲しい部分が音楽やダンスで表現されていた」「音、セリフ、踊りがしっかりと噛み合っていた」「音の流れに無理がなく聞き取りやすかった」「音も登場人物の心境が表れていた」等、表現と関連させた記述が多くを占めた。

#### (4) 音楽領域のまとめ

音楽の領域では、抽出語・共起ネットワーク・記述内容のすべてにおいて「声」の重要性が示された。歌や台詞の音量については、「小さい」という指摘より「大きい=伝わった」というプラスの評価が多かったことから、創作オペレッタの練習段階における指導や、「音楽B<sup>3)</sup>」「音楽D<sup>4)</sup>」で多少補える部分と考える。その他の音楽的要素としては、「歌」「ピアノ」ともに「上手だった」という記述がほとんどであり、マイナス評価がなかったため、創作オペレッタにおける音楽の領域での当面の課題は見出すことができなかった。

### 3-2-2. 造形表現

#### (1) 抽出語

造形表現に関わる用語の出現回数については、「衣装」86回、「作る」44回、「小道具」42回、「照明」14回であった。

創作オペレッタでは、「衣装」も場面を彩る役割を果たしている。すべてのクラスで、照明を含めた効果の中に、衣装が備える豊かな印象を讃える記述があった。生地から手作りしていることを読み取り、「凝っている」「工夫している」など「オリジナリティ」を見出すと共に、構成に関連する「統一感」などの記述があった。これらの記述では、次年度に取り組む内容を確かめ、関心を高めている様子が表れている。「場面の変化」に与える効果や、「鮮やかさ」や「華やかさ」を与える効果、「可愛さ」「綺麗さ」といった印象を与える効果などが記述された。

「作る」は、「構成」「ストーリー」「台本」「作品」「歌」などに関連して用いられたケースが多い。この

中の造形に関連するケースは14回で、「丁寧に」「時間をかけて」「凝っている」など、物質的に取り組まれた質量を捉えて、その労力や努力を讃える記述となっていた。

「小道具」では、「雰囲気 that 伝わる」「話の場面を引き出せている」「工夫がみられる」など、効果的な演出についての記述が多い。「見ていて飽きない」「手作り」「細かく作られている」などの記述も多く、小道具に対して魅力を見出している。また、舞台の動きと関連させて観る記述もあり「セッティングの素早さ」を評価する記述まであった。

「照明」では、効果として認めながら、制作過程について想像している。照明に対して「どのような練習」に取り組んできたのか疑問が記されていた。また、実際の演技との「ズレ」が生じている様子に対し、どのような「状態」で操作をしているのか、関心を示す記述があった。

#### (2) 共起ネットワークによる分析

共起ネットワーク図の「衣装」を含むグループを見ると、「衣装」を起点に「小道具」「作る」「可愛い」「凝る」「妖精」「細かい」「工夫」などの語と結びつきが見える。

その中で、「作る」は「照明」を含むグループの「役」「演じる」に関係することから、衣装や小道具の表現が舞台イメージを豊かにしている様子が見える。「小道具」と「舞台」、「工夫」と「照明」に語と語の関係性があることから、造形表現に空間演出や場面構成との関係性が見える。

「可愛い」が用いられた記述では、「衣装」に対する意見が大勢を占めている。「凝る」と「工夫」では、「衣装」「小道具」「照明」に関する意見が半数程度あり、「細かい」部分までの作り込みやデザインに魅力を感じ、「可愛い」や「面白い」などの評価につながっている。また、「野菜」「衣装」に対し「色合いを工夫している」という記述がある。「妖精」では、「衣装」の印象が強く残ったという記述が多い。

共起ネットワーク図の造形表現に関わる語は、「歌」「ダンス」を含むグループ、「内容」「ストーリー」を含むグループとの直接的な語と語の結びつきは認め

られず、他領域との関係性は弱い。このことから、造形表現は、舞台を作る中での一要素となっていたことがわかる。

### (3) 記述内容

記述内容を見ると、「衣装」や「小道具」の仕上がりに感心する意見が多数であった。「デザインが工夫されており衣装の質が高い」「細部までこだわっている」など、見た目の印象から興味を広げ、次年度の取り組みに向かう展望が記述されていた。

「照明」では、「衣装」や「小道具」との関連性を意識的に捉えて、「場面や場所移動が情報としてわかりやすい」や「変化があり見ていて飽きを感じない」などの記述があった。このように抽出語に関連する意見は、概ね「良い」評価が記述されていた。

抽出語に対し「～がほとんど同じで場面の移り変わりがわかりにくい」「～が少ない」「～の移動時間が長い」などマイナスの評価を示していたのは、「小道具」である。舞台構成に関連する問題として、配置と大きさ、その段取りと配慮など、空間の扱いに対する意見が記述された。「物足りなさを感じる」など作品の造形性について不満を述べる記述もあった。

### (4) 造形表現領域のまとめ

良い評価を示す「素晴らしい」という語が抽出されている。その評価は、創作オペレッタ全体やストーリー、演技を含めた舞台という単位が中心である。共起ネットワーク図に示されるとおり、「衣装」「小道具」「照明」といった、物質的な造形物は「可愛い」という評価に結びついていることから、構成上の一要素として考えるところである。

記述内容にある「衣装」「小道具」に見出す魅力は、造形力や構成力があっての成果であり、入学前に備えている、または在学中に備わった造形力が発揮されたものである。マイナスに記述された内容としては、舞台空間の扱いに関係した小道具の造形と、舞台上での配置と大きさに関する内容である。これは、ヴァリエーション、バランス、コントラスト、プロポーション、パースペクティブなどの構成要素について感覚を養うことと、多様な素材との関わりが必要で、1

年時の授業内で主体的に形や色を捉えて学習することが望ましい。「小道具」の造形性と形と色と質の多様性の欠如を指摘されたことから、発想を造形に結びつけることが難しい状況が含まれていると考える。

「衣装」「小道具」「照明」を制作する時期は授業後半になってからであり、台本が完成してから複数回変容する見通しもある。造形性を高めるための段階的なドローイングが有効であったと思われる。本制作の前に、アイデアスケッチで構想を豊かにして、段階的に試作を重ねることが、「衣装」「小道具」「照明」での効果を豊かにするのではないかと考える。

## 3-2-2. 身体表現

### (1) 抽出語

「ダンス(踊り)」の出現回数は78回(振付9回を含めると87回)であった。創作オペレッタは歌とともに、その表現にはダンスも多く取り入れられており、ダンスについては賞賛する意見がほとんどであった(66回)。その中で、ダンスの上手さやレベルの高さ、振り付けそのものを賞賛する意見、動きがそろっていることを賞賛する意見などが見られた。その他、学生自身で振り付けをしていることに感心を示す意見も見られた。

身体表現に関わる用語の出現回数は、「表現」30回、「構成」28回、「演出」10回であった。

「表現」では、表現そのものを賞賛する意見のほか、身振り手振りやダンスを含む動きが表現につながっていることへの理解を示す意見、身体表現が内容伝達のために必要だという意見、動きの大きさによって表現の幅が広がることへの指摘などの記述があり、その中には、次年度に取り組み際の課題や不安なども記述されていた。

「構成」では、舞台空間をどのように利用しているか、隊形変化について記述しているものが見られた一方で、「構成」という用語を「物語構成」「音楽構成」「舞台構成や隊形変化」など様々に捉えて記述している学生が見られ、どの構成について記述しているかが不明瞭なものも見られた。

「演出」では、台詞のない場面での演出を賞賛する意見が少数ではあるが見られた。

## (2) 共起ネットワークによる分析

共起ネットワークによる分析では、「ダンス(踊り)」は「歌」「場面」「上手」「多い」「凄い」「高い」という語とともに記述されていることが分かった。「ダンス」と「歌」ではダンスと歌の双方を評価し、その多くが「上手」「凄い」と賞賛する意見が多く見られたと共に、音楽との調和を評価する意見も見られた。「ダンス」と「上手」「凄い」「高い」ではダンスそのものを賞賛する意見、技術レベルの高さに感嘆する意見が多く見られた。「ダンス」と「場面」ではその場面にあったダンスを賞賛する意見が少数見られはしたが、「表現」「伝わる」「内容」「ストーリー」等、ダンスがどのような表現やストーリーとつながっていたかに関する記述は少数であった。

## (3) 記述内容

記述内容は、「ダンスの振りつけもとてもよかった」「踊りも上手い」「動きがきれいに揃っていた」といったダンスの上手さ、そろっているか、振り付けの良さに関する内容が多く見られた。

一方で、少数ではあるが、「その役に合っている振り付けで見てとても分かりやすかった」といったダンスによるキャラクターづけ効果、「その場面に合わせたダンスや動きがすごく表現の材料になっている」といった表現につながるダンスの効果に関する内容も見られた。

その他、「大きな動作や身振りによって伝わりやすい」「目線や表情を含めた表現力の必要性」といった表現に関する記述、「花道や舞台上での人数配分がとてもみやすいように構成されていた」等、舞台の使い方に関する記述、また、「アクロバットなども取り入れていて体育大ならではの感じがして良かった」といったアクロバットを用いた場面づくり等、体育短期大学ならではの演出に関する記述も見られた。

## (4) 身体表現領域のまとめ

抽出語及び共起ネットワークによる分析から、創作オペレッタにおいて、台詞、歌や音楽に並んでダンスも重要な構成要素になっていると考えられる。また、ダンスはその技術やレベル、音楽との調和に鑑

賞の目が向いていることが分かった。しかし、ダンスを表現媒体として用いている以上、物語を伝えるための手段としてダンスを活かすことで、表現がより豊かになると考える。授業で行っているテーマに合わせた作品創作や発表において、作品をまとめることや他者の動きを観察すること、自身の動きを振り返ることは行ってきたが、さらに、相手に伝えるための動きづくりの方法を示し、身体を使って表現できる力を養うことも必要なのではないかと考える。

また、記述内容では、ダンス技術やそろっているかなどの記述が多く見られた一方で、舞台構成・隊形変化、体育短期大学らしい演出に関する記述は少数であった。このことから、舞台演出に関する効果の理解を図ることや、体育短期大学らしい演出効果の可能性を探ることも授業において示していくことが必要ではないかと考える。

## 4. 課題及び今後の授業間の連携にむけて

### 4-1. 課題

現行の授業内容から、創作オペレッタの要素に対応する授業内容と今後の課題を領域ごとに示した(図2)。

#### 4-1-1. 音楽

アンケート内容を分析した結果、音楽の領域では当面の大きな課題は見出せなかったが、一層の充実を望むとすれば、「発声」と「作詞・作曲」力の強化が挙げられる。図3の授業内容を見てもわかるとおり、音楽の授業は「造形表現」「身体表現」に比べて授業数が多く、創作オペレッタに向けての内容は授業内で補完できるものが多い。数年前から、音楽の各授業間において創作オペレッタに向けて意識的な連携に取り組み、現在では、音楽の各授業での内容を、創作オペレッタに融合しつつある。

「作詞・作曲」については、具体的に体験する授業が該当せず、創作オペレッタの制作過程において学ぶのが現状であるが、前年度後期に作詞・作曲能力を高めるための集中講座を開講することも可能性として挙げられるだろう。

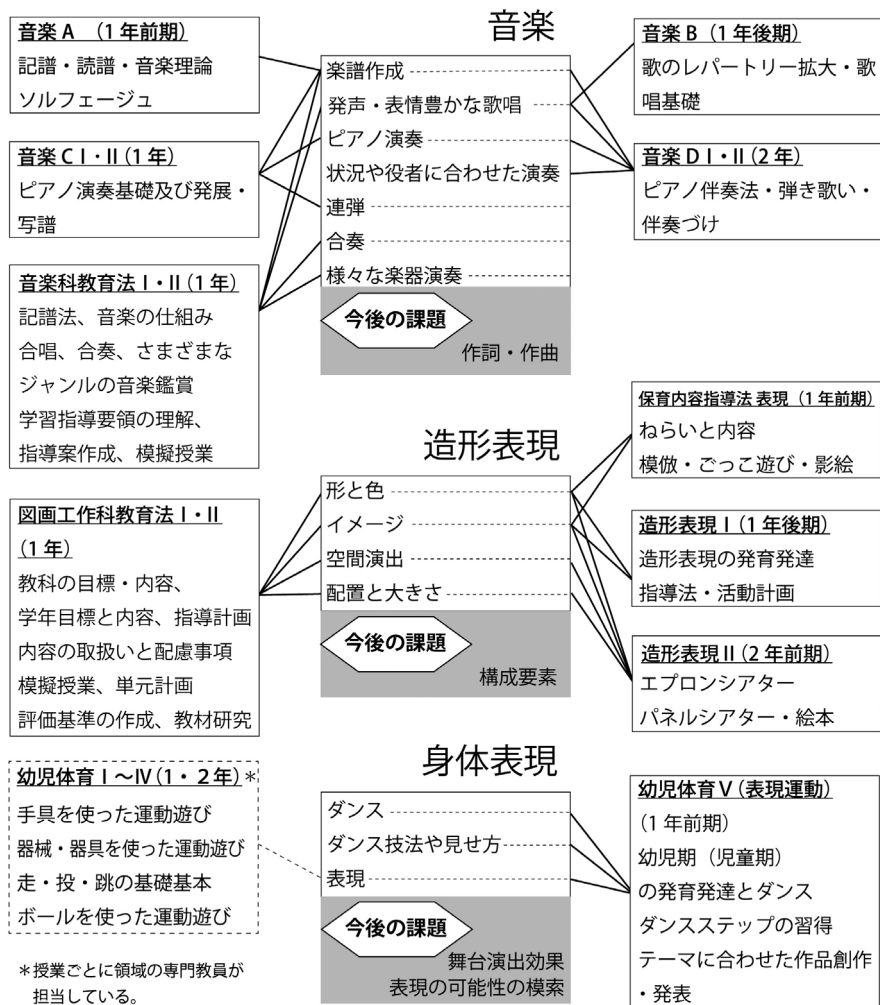


図2 創作オペレッタに対応する授業内容と今後の課題

さらに創作オペレッタを発展させるためには、「音楽」領域だけでなく「造形表現」「身体表現」領域の内容を創作オペレッタの授業に積極的に取り入れ、連携しながら内容の充実を図ることが必要であると考ええる。

#### 4-1-2. 造形表現

アンケート内容を分析した結果、造形表現がオペレッタ作品の一要素であることが明らかとなった。衣装や小道具の造形制作に支障がないこと、舞台に合わせて小道具などを計画すること、複合的に舞台構

成を追求できることが課題として考えられる。このことから、造形表現の領域では①造形性、②配置と大きさ、③構成遊び、という3つの学びのポイントが挙げられる。具体的に養うべきアイデアは次のとおりである。

##### ①造形性…基礎的な造形性についての確認

###### a. 形

視覚的効果の土台となる線や面の形で表現する

###### b. 色

視覚的効果の演出する明るさ、鮮やかさ、色味の違いを生かす



- c. 材質  
既製品、自然物、リサイクル品、多様性を生かす
- d. イメージ  
形や色、材質を考えて、物語や場面の印象を創り出す
- ②配置と大きさ…空間を効率よくデザインする、配置と大きさへの配慮
- e. 環境構成  
場空間、時空間、に関する見立てと設定
- f. 配置と大きさ  
配置の仕方と大きさの調整で印象の質を高める
- ③構成遊び…構成遊びで養われる感覚
- g. 構成要素  
シンメトリー、バランス、コントラスト、プロポーション、パースペクティブ、アクセント、ヴァリエーション、グラデーション、リズム、リピテーション
- h. 美しさ  
印象を持つ形や色を段階的に見せて、美しく舞台場面を構成する

これらは、1・2年次に授業の中で学べる内容でもある。しかしながら、必ずしもこれを主として学ばないため、現在の授業概要では養われない部分があると考える。科目の学習内容を調整し、創作オペレッタに必要な造形性が高まるよう、担当する授業計画を再考しなければならない。

上記①は、必ず備えるべき知識と技能を含む。これらを個別の教材で多様に学び、形や色、材質、それによって表れるイメージに対して、独自の感性を持たなければならない。1年次の授業で主体的に取り組めば、その応用はできると思う。②は、空間を扱う感性と配置と大きさを工夫して活動環境を整えることである。学生が比較的苦手とする部分であり授業改善が必要である。実習等、現場での学びと短期大学での学び、これを土台にして自分なりの活動環境を構築することを目指す、保育のイメージを豊かにする教室の模型作りが教材として有効と思われる。創作オ

ペレッタにつながる要素を含めて1年次の学びとして導入したい。③は、あらゆる表現に共通する考え方であり、音や動きの印象とも比較しながら捉えることが可能である。幼稚園教育要領「表現」内容(1)に、「音、形、色、手触り、動き」とあるが、それぞれの特徴を捉えて創造的に学ぶのは異なる科目に分かれてからである。領域や分野を超えて集大成を進めるにあたり、造形表現から環境を整えようとする、アイデアに対して形を与えることに絞られてくる。創作オペレッタを通じて感性というまとまりを再形成される中では、舞台の模型作りが有効と思われる。

デザインでは、モックアップという試作を繰り返す工程がある。建築や彫刻では、マケットと呼ばれる縮尺模型が作られる。絵画でも、小下図、下図、本制作と段階的に制作される。創作オペレッタの衣装や小道具制作などは空間で扱う小物になるため、模型制作を導入することで段階的に発想を展開できると思われる。そこでは、表現しようとする舞台の縮尺模型を制作、場面や演出などを着想し、人や物の配置と距離感やサイズ感の配慮について考えることができる。加えて、演技や踊り、衣装、小道具の構想など進めることもできる。よって、1年次での教室の模型制作と、2年次での舞台模型制作、この2つの模型を作る演習を展望する。この模型は、試行段階の制作過程を物質化することであり、作品映像とともにアーカイブして参考資料となる可能性も見える。

創作オペレッタでの、「造形表現」領域における学びは、造形的に「舞台」「イメージ」を表現することである。テーマから離れたものを集めて単に組み合わせるのではなく、一つ一つの価値を確かめ合い、複数のプランから最良の表現を皆で生み出すのが理想であると思う。協議を経て考えや想いを形と色に変えることができるならば、創造性豊かな感性を養う一助となるはずである。

#### 4-1-3. 身体表現

アンケート内容を分析した結果、身体表現の領域では、①身体表現の領域で必要とされる技術や能力、②舞台演出に関する効果の理解、③体育短期大学らしい演出効果の可能性、という3つの課題が挙げら

れると考える。具体的には次のとおりである。

- ①身体表現の領域で必要とされる技術や能力
  - a. ダンス
 

動きの幅の拡大、多くのダンスポキャブラリーの習得
  - b. ダンス技法や見せ方
 

ダンス技法(カノンとユニゾン、コントラスト、対称と非対称など)を理解した上での実践力  
個々の動きにおける見せ方を理解した上での実践力  
隊形変化による印象(集団の見せ方)を理解した上での実践力  
音楽とダンスの関連性の理解
  - c. 表現
 

表したいテーマについての探求心、ダンスを通して表現する力  
感情や役柄に合わせた表現方法
- ②舞台演出に関する効果の理解
  - d. 舞台演出効果
 

舞台空間の使い方とその効果の理解
- ③体育短期大学らしい演出効果
  - e. 表現の可能性の模索
 

すべての動きが表現につながるという意識づけ、表現の可能性を模索する力  
部活動所属や運動経験などで身につけたスポーツの専門性(種目特有の動き)の活かし方の理解

また、1998(平成10)年の「現代的なリズムのダンス」の導入、2008(平成20)年の「ダンス必修化」(中学校1・2年生男女)にともない、ダンスを踊ること、人前で発表することに抵抗のない学生の増加を感じる。一方で、「現代的なリズムのダンス」に対する誤解もあり、簡単に教えられるダンスとして、多くの学校で行われている実態もある。このような実態から、中学校、高等学校でのダンスの授業においては、創作ダンスのような「テーマを表現するダンス」に関する学習が希薄になってきているのではないかと考えられる。創作オペレッタでは、物語を展開し、内容を伝えるために台詞や歌、ダンスが用いられており、

身体を使って表現し、内容を伝えるためには、身体を使ってどのような表現ができるのか、それを模索し、形にできる力を身につけることが必要だと考える。

身体表現の領域では、上記のa～eの課題が抽出された。これらのうち、1年次の授業科目「幼児体育V(身体表現)」において、達成可能な課題は、「a. ダンス」「b. ダンス技法と見せ方」「c. 表現」である。「a. ダンス」については、各種ダンスステップ、ダンス技術、規定ダンスの習得により、動きの幅を広げ、多くのダンスポキャブラリーを増やすことができる。「b. ダンス技法と見せ方」については、練習を通して個の技能向上につながり、個々の動きの見せ方を工夫することができる。また、作品創作及び発表において、隊形変化の工夫、集団の見せ方への理解につながる。しかし、ダンス技法や音楽との関連については、作品創作の中で実践してはいるが、用語の理解、音楽との関連性の理解を図るところまでは指導していない。「c. 表現」については、授業全体を通して、身体での表現の可能性を探ることができる。しかし、本科目は選択科目であり、すべての学生が受講しているとは限らないため、創作オペレッタに関わる学生の履修とその内容を理解し、習得することが望まれる。

一方、「b. ダンス技法と見せ方」のうち、ダンス技法や音楽との関連に関する内容、「d. 舞台演出効果」「e. 表現の可能性の模索」を解消する授業計画が必要である。さらに、「b. ダンス技法と見せ方」のうち、リズムと動きの関連など、「音楽」領域との連携が必要である。また、今回のアンケートからは挙がらなかったが、衣装、小道具や装置、照明効果などもダンスと関わる領域であることから、「造形表現」領域との連携が必要である。

③体育短期大学らしい演出効果として、新体操の用具を使った演技を用いた演目が過去の創作オペレッタに散見できることから、「幼児体育I～IV」の科目で取り扱っている「用具を使った運動遊び」「器械・器具を使った運動遊び」「走・跳・投の基礎基本」「ボールを使った運動遊び」が、創作オペレッタを演出する際の材料となり得るという意識づけをすることも必要ではないかと考える。

## 4-2. 今後の授業間の連携にむけて

これまでの研究で明らかとなった課題と現状の授業内容をふまえ、造形表現・身体表現領域と連携し、授業計画を新たに構成した。

創作オペレッタの授業内容は、「保育内容指導法(音楽表現)」の頃は前期に教育実習に向けて音楽表現の演習を取り入れ、後期をオペレッタ制作とし

ていた。「創作オペレッタ」となってからは、前期からオペレッタ制作に取り組んでいたが、音楽が中心であり、前述のとおり、造形表現や身体表現の分野は授業外でのアドバイスにとどまっていた。今回作成した授業計画の改善点は、造形表現・身体表現を授業内に取り入れ、領域別特別講義、オムニバス授業などを盛り込んだことである(表2)。

表2 授業計画案

回数	内容
1	授業ガイダンス 概要説明 過去作品鑑賞①
2	過去作品鑑賞②・オープニング歌唱・係決め
3	領域別特講(1)→①音楽:作曲②音楽:歌唱③造形④ダンスに分かれての領域別講義
4	領域別特講(2)→①音楽:作曲②音楽:歌唱③造形④ダンスに分かれての領域別講義
5	ストーリー案作成
6	↓ オープニング歌唱 暗譜チェック
7	↓ オープニングダンス振り付け①
8	↓ オープニングダンス振り付け②
9	↓ オープニングダンス振り付け③
10	ストーリー決定・台本作成開始・作曲開始
11	
12	
13	
14	↓
15	台本完成・提出
16	立ち稽古開始(台詞振り分け・台本暗記)
17	小道具・衣装案提出
18	〃 試作
19	〃 本制作開始
20	オムニバス授業①演技内容をA:音楽B:造形C:身体表現 の視点からチェック
21	オムニバス授業②演技内容をA:音楽B:造形C:身体表現 の視点からチェック
22	オムニバス授業③演技内容をA:音楽B:造形C:身体表現 の視点からチェック
23	オープニング確認
24	学内リハーサル
25	通し稽古
26	通し稽古
27	学内最終リハーサル(照明・音響合わせ)
28	通し稽古及び最終確認
29	会場リハーサル(外部ホール)
30	本番(外部ホール)

## 5. まとめ

本研究で得られた各領域の知見は、以下のとおりである。

### 5-1. 音楽

学生が「声」を重要視していることが明らかとなったため、発声に関しては創作オペレッタ及び音楽の各授業内で補完していく。ピアノの演奏技術については評価が高かったため、現在の内容を継続する。集中講座の開講による作詞・作曲指導の必要性も見えた。音楽の各授業は創作オペレッタに向けて連携しつつあり、音楽面での大きな課題は見出せなかったが、造形表現及び身体表現領域と連携した内容で創作オペレッタの授業内容を構成することによって、総合表現として完成度をさらに高めることが期待される。

### 5-2. 造形表現

1年生は、「衣装」「小道具」に対し形・色・イメージを捉えていた。これら舞台要素としての造形に関連して、その奥行きや広がり、場面の組み立てとその効果への関心が認められた。分析では、場の見立てや構成など、総合表現での他領域との関わりを確かめ、豊かな感性や感覚を実現する成果が見えてきた。今後の模型制作や段階的な工程の授業実践を通じ、学習効果が高まる手立てを考案できると良い。

### 5-3. 身体表現

ダンスはその技術やレベル、音楽との調和に鑑賞の目が向いていることが明らかとなったため、物語を伝えるための手段としてのダンスを創作する力を身につけ、表現をより豊かにできるような授業内容の充実が必要であることが分かった。また、ダンスの効果、舞台構成や隊形変化による効果を理解するとともに、体育短期大学ならではの演出の可能性を模索するような授業内容の充実を図ることが望ましいと考える。

## 6. おわりに

創作オペレッタは、短期大学での学びを総合的に表現する場である。学生は創作オペレッタ発表会に向け、学んできた内容を活かしながら主体的に活動している。本研究では、42年継続してきた本学の創作オペレッタを、現在の状況に適したカリキュラムとして提供するために、学生への意見を求めた。創作オペレッタの本番の舞台について、客観的な視点で他者評価が得られたことは一つの成果である。その一方で、今後の創作オペレッタの充実のためには、実際に受講し演じている学生への調査も実施する必要があると考える。音楽中心で始まった本学の創作オペレッタだが、造形・身体表現領域の連携を得て、内容を充実させる新しい展開を得ることができた。この先は実践して振り返り、更なる授業改善をしていきたい。また、本学の創作オペレッタは、ストーリーが学生のオリジナルとなるため、ストーリー及び台本作成は、言語表現との密接なつながりが求められる部分である。創作オペレッタと言語表現領域との連携も、今後の重要な課題として挙げておく。

### 注釈

- 1) アンケート調査の実施にあたり、次年度に自分たちが行うことを前提に、「単なる感想」ではなく、自分たちが来年度に行うことを前提に、さまざまな角度から鑑賞する趣旨を伝えている。
- 2) ③については、言語表現領域に該当するが、新カリキュラムの創作オペレッタ担当者ではないため、今回の分析対象とはしない。
- 3) 「音楽B」の授業内容は、歌唱法と子どもの歌のレパートリー拡大等である。
- 4) 「音楽D」の授業内容は、弾き歌い及び伴奏法等である。

### 参考・引用文献

- 在原章子(2009): 創作オペレッタ発表会を終えて  
学園便り 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学後援会 p. 7.
- 樋口耕一(2014): 『社会調査のための計量テキスト

分析—内容分析の継承と発展を目指して—』ナカニシヤ出版.

伊藤智里・秋政邦江・青井則子・尾崎公彦・入江慶太(2014):総合表現(オペレッタ)における授業開発Ⅱ—領域「言葉」「表現(身体表現・造形表現・音楽)」に関する科目内容とオペレッタ制作との関連— 川崎医療短期大学紀要34 pp. 29-37.

菊本哲也(1990):創作オペレッタの会 学園便り 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学後援会55 p. 1.

前掲,十五周年創作オペレッタ発表会を終えて p. 5.

北村恵子(1984):創作オペレッタ実践の意義—保育者の資質を高める音楽教育として— 上田女子短期大学紀要7 pp. 51-65.

厚生労働省(2017):保育所保育指針.

文部科学省(2017):幼稚園教育要領.

中村恭子(2013):日本のダンス教育の変遷と中学校における男女必修化の課題 スポーツ社会学研究21(1) pp. 37-51.

佐々木友里・葛谷潔昭(2016):保育士養成におけるオペレッタ創作の効果～社会人として求められる能力の獲得の可能性について～ 豊岡短期大学論集13 pp. 187-194.

滝沢ほだか・山田悠莉・横田則子(2016):造形・音楽・身体表現を連携させた保育内容「表現」の授業改善①—授業設計を中心に— 日本保育学会 第69回大会発表要旨集 p. 402.

東京女子体育短期大学児童教育学科第42回創作オペレッタ発表会パンフレット.

柳田憲一(2010):オペレッタを振り返って 学園便り 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学後援会115 p. 7.

現領域の分析・解釈・執筆を担当した。柳田憲一は研究計画、アンケートの作成、第一章の執筆を担当した。

## 付記

本研究において、三好優美子は研究計画、音楽領域の分析・解釈・執筆・図表の作成、論文全体の校閲を担当した。共同研究者の分担は以下のとおりである。渡邊洋は研究計画、KH Coderによる分析作業、図表の作成、造形表現領域の分析・解釈・執筆を担当した。長谷川千里は研究計画、身体表

資料1 創作オペレッタ発表会 第1回から第41回までのコンテンツ

## 第1回目から第41回目までのコンテンツ

### 第1回 昭和51年2月6日 立川市市民会館大ホール

童謡ファンタジー 四季  
ピアノ コンサート  
創作オペレッタ よい子の夢

### 第2回 昭和52年2月3日 立川市市民会館大ホール

歌のファンタジー 園児のうた みんなのうた 歌の世界めぐり  
のびるぞたけの子  
泣いた赤鬼  
小人とくつ屋

### 第3回 昭和53年2月2日 立川市市民会館大ホール

ファンタジー 四季のまつり  
お口の中はおおさわぎ  
うばすて山  
日本未来山  
ワザワザ森の仲間たち

### 第4回 昭和54年2月11日 立川市市民会館大ホール

ファンタジー 動物の森、そして海……  
河童の雨乞い  
夢の中で  
みな子ちゃんはどこへ  
サンタクロースってほんとうにいるの？

### 第5回 昭和55年2月10日 立川市市民会館大ホール

なつかしいこどものうた  
わらべうた・異国のメロディー・童謡  
不思議な宝物  
ふるさと  
お妃さまはビスケット  
アリババと盗賊たち

### 第6回 昭和56年2月6日 立川市市民会館大ホール

ファンタジー 四季の歌  
王様サブちゃん  
狼と七人の子山羊  
田舎のねずみと都会のねずみ  
雪の女王

### 第7回 昭和57年2月13日 立川市市民会館大ホール

歌のファンタジー 花の街  
A組 へ口出しチョンマ  
B組 一休さん  
C組 かさこじぞう

### 第8回 昭和58年2月5日 立川市市民会館大ホール

藤村学園創立八十周年記念  
歌のファンタジー ババ ママ そして私たち  
A組 青い鳥  
B組 ビノキオ  
C組 ぶつぶつ町の話

### 第9回 昭和59年2月4日 立川市市民会館大ホール

歌のファンタジー ふるさと  
A組 みにくいあひるの子  
B組 不思議なオルガン  
C組 さるかに合戦

### 第10回 昭和60年2月9日 立川市市民会館大ホール

10周年記念 おもいで B組  
A組 白鳥の王子  
B組 夢の中へ  
C-d オズの魔法使い (L・F・バウム)  
C-e ピーターパン (H・C・バリ)

### 第11回 昭和61年2月8日 立川市市民会館大ホール

A-a 長靴をはいたねこ (ペロー原作)  
A-b サーカス物語 (エンデ原作)  
B組 のらねこトム-夢を求めて-  
C-d 森は生きている (マルシャーク原作)  
C-e 黄金のがちよう (グリム原作)

### 第12回 昭和62年2月14日 杉並区立公会堂

A組 ハーメルンの笛ふき  
B組 マーラー-星パトロール日記-地球編-  
C-d イソップ森のおはなし (イソップ物語より)  
C-e リュート弾き (ロシア民謡より)

### 第13回 昭和63年2月13日 立川市市民会館大ホール

A組 待 夢 -タイム-  
B組 まなぶ記念日 地獄-丁目物語  
C-d 偉大なワンドゥールさいごのーびき  
C-e ネバーランド愛と光の国へ

### 第14回 平成元年2月12日 立川市市民会館大ホール

A組 太陽よ、赤い真珠のままでいる  
B組 ぼくのうみ (灰谷健次郎作品より)  
C-1 メアリー ポピンズ  
C-2 12人の王子 (グリム童話より)

### 第15回 平成2年2月10日 立川市市民会館大ホール

15周年記念  
A組 僕らの冒険活劇箱  
B組 満員電車のわずれもの-ぼくたちの時間-  
C-d ちよっと、まって  
C-e うらしまたろう

### 第16回 平成3年2月3日 東京都多摩教育センターホール

A組 自然からのおくりもの  
B組 おほろくの川たいこ  
C-d おしいれのなかのぼうけん  
C-e スイミー

### 第17回 平成4年2月8日 立川市市民会館大ホール

A・B組 本当の理由 (人形館より)  
C-d やまんばのにしき  
C-e キライだなんていわないよ!!

### 第18回 平成5年2月6日 立川市市民会館大ホール

A・B同好者 懐中時計  
C-d 大切なもの みつけた  
C-e 不思議な冒険 ~オズの森~

### 第19回 平成6年2月5日 立川市市民会館大ホール

A・B同好者 ファンタスチック・キッチン  
C-d ゆうきの扉 ~僕はひとりじゃない~  
C-e 人生の冒険 ~幸せを探しに~

**第20回 平成7年2月4日 立川市市民会館大ホール**

20周年記念特別作品

- C-d 春を探して 原作 吉田豊 作曲 菊本 哲也  
C-e 不思議な物語

**第21回 平成8年2月3日 藤村総合教育センターホール**

- A組 勇気という翼を広げて  
B組 本で会おうよ  
C-d ビノキオ  
C-e 夢を信じて ~ひとりじゃないから~

**第22回 平成9年1月25日 藤村総合教育センターホール**

- A-a 碧い石 ~素直な気持ちで...~  
A-b 輝きの森 ~きみと歌ったあの季節を~  
B-c 先生のちっちゃな宝物  
B-d 白雪姫と七色の小人たち

**第23回 平成10年1月28日 藤村総合教育センターホール**

- A-a 魔法の箱 ~心の中の自分~  
A-b TREE ~僕らは生きている~  
B-c 僕らの仲間 ~Natureworld~  
B-d コッコの実 ~本当の心とは~

**第24回 平成11年2月6日 アミューたちかわ大ホール**

- A-a 「My Treasure」 ~ほくの宝物~  
A-b DREAM CAST ~夢と勇気をさがしに~  
B-c さるかに合戦 1999 ~心をつなぐペンダント~  
B-d 天使の手 ~みんなに伝えたい~

**第25回 平成12年1月28日 アミューたちかわ大ホール**

- A-a さっちゃんのいる  
A-b 「ピュア」 ~夢をつないだ天使たち~  
B-c To Heart ~光の射す場所~  
B-d 山の贈り物

**第26回 平成13年1月26日 アミューたちかわ大ホール**

- A-a Time  
A-b 勇気のキセキ☆ ~白雪姫より~  
B-c 小さな願い ~心をつなぐもの~  
B-d Smile again, promise you

**第27回 平成14年1月25日 アミューたちかわ大ホール**

- A-a のぞいてごらん君の心  
A-b はんぶんごのしあわせ  
B-c たいせつなこと ~おもちゃからの贈り物☆~  
B-d プレシャス ~大切なものは何ですか~

**第28回 平成15年1月31日 アミューたちかわ大ホール**

- A-a 戦場からの贈り物  
A-b たからものってなあに?  
B-c ふしぎなきもち ~チチンフィィ~  
B-d みつけたよ ~僕達の正義~

**第29回 平成16年1月30日 アミューたちかわ大ホール**

- A-a・b ワンダーランドは大パニック  
B-c みんなはどっち?  
B-d ♡って知ってる ~君ならこれが解けるはず~

**第30回 平成17年2月5日 アミューたちかわ大ホール**

30周年記念

- A-a 僕らの宝石  
A-b 小さくて大きな幸せ  
B-c 心のパスル ~みんながくれた one ピース~  
B-d きらきらみ~つけ

**第31回 平成18年2月4日 アミューたちかわ大ホール**

- A-a ほくらのちいさなほっぱ  
A-b 心からのありがとう  
B-c トゥーリーと七色のひみつ  
B-d キセキ ~みんなの絆~

**第32回 平成19年2月10日 アミューたちかわ大ホール**

- A-a ほくらの大切なものって...?  
A-b みつけた  
B-c ほくらの約束  
B-d 夢 ~きれいな心を持ってれば~

**第33回 平成20年2月9日 アミューたちかわ大ホール**

- A-a・b ありがとう  
B-c ずっとともだち ~大切なものをもらったよ~  
B-d 彩 ~みんなが一つになるとき~

**第34回 平成21年2月7日 アミューたちかわ大ホール**

- A-a・b 想いが一つになったとき~きみのいいことしてるよ~  
B-c・d 絆 ~手一つ~

**第35回 平成22年2月10日 アミューたちかわ大ホール**

- Aクラス ほくとライオン ~きみがおしえてくれたこと~  
Bクラス 虹色の宝物

**第36回 平成23年2月10日 アミューたちかわ大ホール**

- A・Bクラス Feel for Heart ~ほくにおしえてくれたこと~

**第37回 平成24年2月10日 アミューたちかわ大ホール**

- Aクラス たからもの  
Bクラス 空からのおくりもの ~3つの碑石~

**第38回 平成25年2月9日 東京都立多摩社会教育会館ホール**

- Aクラス 想いよ届け  
Bクラス 6人のだいぼうげん  
~みんながおしえてくれたこと~

**第39回 平成26年2月19日 たましん RISURU ホール大ホール**

- Aクラス わるいことってなあに? ~夢の国でわかったこと~  
Bクラス とびだそう 夢の舞台へ

**第40回 平成27年2月18日 たましん RISURU ホール大ホール**

- Aクラス Dream ~あなたの夢はなんですか?~  
Bクラス ゆめのだいぼうげん

**第41回 平成28年2月9日 たましん RISURU ホール大ホール**

- Aクラス たからもの  
Bクラス 届けようほくらの歌を

## 資料2 アンケート用紙(第41回:平成28年の調査も同じ書式)

第42回創作オペレッタ発表会(平成29年2月14日上演) 1年生用

学籍番号	クラス	氏名
------	-----	----

## 1.A クラスの感想

## 2.B クラスの感想

3.次年度「第43回創作オペレッタ発表会」は、あなたがたが創作・出演するが、自分がやりたいものを○で囲みなさい

## 1) 役割

作曲 作詞 台本 照明 構成 振付け ピアノ 何もしたくない

## 2) キャスト

主役 準主役 歌の多い役 セリフの多い役 目立つ役はいやだ やりたくない

(平成29年2月15日 9:00~13:10に4522音楽研究室/柳田に提出)

(平成29年2月16日 9:00~13:10に4522音楽研究室/柳田に提出)

※この感想文は上演したオペレッタの作品内容の振り返り及び「創作オペレッタ」の授業改善の参考にすることを目的としています。また、記述内容については、研究に使用することもあり、研究成果の発表に際しては、このデータによって個人が特定されないような配慮を行うことや、必要に応じて発表に関する承諾を記入者に得るようにします。

上記趣旨を承諾して、感想文を提出します。